



叢は、音と弋(ぎで地上に立てた目じるしにする木の枝の象形で“しるし”の意味の部首)との会意形声字で、

“境界をはっきりと示すために設けられた、国境である

ことを明言した碑の類”を言います。音は、ことばを意味し、また“文字”をも意味します。

部首としては、“物事を明瞭に区別する”意味に使われます。音はヨク弋。

職は、“耳で、物事をはっきりと聞き分ける”ことが本義です。これは(民の声を聞くということ)役人として最も大切な“仕事”なので、「役職」(しごと)というように使われるようになりました。今では、職は、“職業”というように、ほとんど“しごと”の意味に使われています。音は耳と叢(ヨク)でシヨク。

識は、“言葉のもつ意味をはっきりとさせる”ことが本義です。言と叢との会意形声字で、音はシヨク。転じてシキ。知識。博識。“物事を見分ける”“みとめる”識見。認識。また、単に「叢」の意味“しるし”という意味に使うこともあります。標識。

織は、“しるしのつけられた糸”という意味の字で、“布をおる”という

意味に使われます。はたをおるためには、糸にしるしをつけ、一本一本がはっきりと分けられて張ってなければなりません。“しるし”と“分ける”意味とをもつ叢(ヨク)と糸とで、“はたをおる”意味を表わしました。音は糸と叢(ヨク)でシヨク。総じて漢音で(yoku)の音は、呉音では(iki)です。織機。紡織。組織(はたをおるための“手順”“組み立て”という意味)。

幟は、“しるしの書いてある布(巾)”という意味の字で、“のぼり”のことです。

「旗幟」は、昔の戦争に武士が用いた“はたじるし”です。幟の音はシです。

熾は、“明瞭”の意味の叢と火とで、“火のあかあかと盛んに燃える”ことを表わしています。熾烈。